

歯科インプラント治療における3次元画像診断に適した
コンパクトサイズの歯科用コーンビームX線CT装置
「CB Throne」の発売

2005年4月26日

各位

株式会社 日立メディコ
執行役社長 猪俣 博

歯科インプラント治療における3次元画像診断に適した
コンパクトサイズの歯科用コーンビームX線CT装置
「CB Throne」の発売

株式会社日立メディコ(本社所在地:東京都千代田区、執行役社長:猪俣博、資本金:138億8千4百万円)は、歯科インプラント治療等での3次元画像診断に適した画像を提供する中規模歯科医院向けの歯科用コーンビームX線CT装置「CB Throne(シービー スローン)」を発売します。

***コーンビーム撮影技術:**被写体に円錐状のX線ビーム(コーンビーム)を照射して回転撮影を行い、3次元画像を生成する3次元X線計測技術です。通常のX線CT装置に比べ、低被曝・高解像度の撮影が可能として注目されています。

***「CB Throne」:**「CB」はコーンビーム(Cone Beam)の略、「Throne」は英語で「玉座」という意味です。

1. 発売の狙い

近年、歯科用インプラント治療に代表される歯科治療技術の高度化を背景に、歯科医療においても3次元画像診断が急速に普及し始めています。通常の歯科用X線装置は2次元画像しか提供できず、全身用X線CT装置も大型で歯科部門での設置に向いていないという問題がありました。こうした中、当社は2002年に歯科用コーンビームX線CT装置「CB MercuRay」を発売し、大学病院や大規模歯科医院にて好評を得ております。

さらに、最近では大学病院や大規模歯科医院中心に行われてきたインプラント治療が中規模歯科医院でも盛んに行われるようになり、より小型でリーズナブルな装置のニーズが高まっていました。「CB Throne」は従来装置の高画質・短時間撮影機能はそのままに、診断の目的を歯科インプラントに絞り込むことで装置を小型化することに成功しました。

当装置の発売により、歯科用X線CT装置がラインナップ化し、お客様の目的に応じた製品提供が可能になります。

*** 歯科インプラント治療:**歯がなくなった顎の骨に、人口の歯根(インプラント)のネジを埋め込んで、新しい土台を作り、その上に人口の歯をつけるという高度な歯科治療方法です。患者様のQOL(Quality Of Life)向上を背景に、急速に普及しています。

2. 本製品の主な特徴

(1)コンパクト

従来機種に比べて約40%の小型化を実現しました。最小で1.8m×1.8mのスペースに設置することができることにより、中規模歯科医院でも設置が可能になります。

(2)高いコストパフォーマンス

従来機種の高画質・短時間撮影はそのままに、撮影視野を歯科インプラント治療の3次元画像診断に必要な範囲に絞り込みました。これにより、コストパフォーマンスの高いシステムの提供を実現しました。

(3)優れたデザイン性

回転アームの支柱が無いピラーレス構造を実現しました。このデザインにより、被検者の圧迫感を低減します。

3. 発売時期:2005年5月
4. 定価(標準システム):3,045万円(税込)
5. 初年度販売予定台数:約50台

【 このニュースのお問い合わせ先 】

株式会社日立メディコ 広報担当:西田、杉原 製品担当:上野
〒101-0047 東京都千代田区内神田一丁目1番14号
TEL:03-3291-6391

以上